

M PLUS Rounded 1c ExtraBold
Noto Sans JP Bold

PCR検査による でっち上げ パンデミック

2025年11月

最新のドイツ査読済み
論文が暴く衝撃の真実

- 数字はどのように
作られたのか？
- 隠蔽された
「本物の感染」データ



86%非感染

感染を証明するIgG抗体を
産生したのはわずか「14%」

- ・ドイツALMの膨大なデータ分析で判明
- ・大半は生物学的な感染が成立していなかった
- ・世の中のパニックは「診断上の幻想」

86%

M PLUS Rounded 1c
Noto Sans JP Bold

14%

86%

死滅した ウイルスの断片

PCR検査が検出していたものの正体

- 「生きているウイルス」の証明ではない
- 「発症・伝播」の証明でもない
- 医学的な意味での感染を定義できていなかった



CT値35~45

感染性のない破片を「陽性」にする極限の増幅

- 高CT値設定による数値の異常な膨張
- 無症状の「偽の陽性者」を量産
- 結果的に病床を占拠し、医療崩壊を演出



7～10倍の水増し

最小二乗法で判明したデータの乖離

- PCR陽性率とIgG陽性率を較正
- フィッティング係数は驚愕の「0.14」
- 公式報告の感染者数は実態と大きく乖離



25%の集団免疫

2020年末時点で既に形成されていた自然免疫

- 当局はこのIgGデータを無視して政策を強行
- 本来は対策緩和の根拠となるはずのデータ
- 自然感染による免疫の兆候を隠蔽



幻想 vs 現実

【PCR陽性（公式報告）】 M PLUS Rounded 1c ExtraBold

- ・対象：ウイルスRNAの断片
- ・結果：86%が偽装感染
- ・影響：ロックダウンの根拠（陽性者の最大化）

【IgG抗体（実質的な感染）】 M PLUS Rounded 1c ExtraBold

- ・対象：感染後の免疫応答
- ・結果：14%のみ（25%が既に集団免疫）
- ・影響：政策上は無視された



奪われたリソース

「7日間発生率」という砂上の楼閣による社会統制

- 子供の教育機会や若者の時間の喪失
- 科学的根拠のない行動制限と自粛
- 浪費された莫大な税金と個人の尊厳



透明性の欠如

権威が振りかざした知的独裁と隠蔽

- ロベルト・コッホ研究所 (RKI) 等による不透明な情報公開
- 不完全なPCR数値を「黄金律」として利用
- 恐怖を維持し市民をコントロールするツール化



冷徹な視点を持つ

感情的な煽りに惑わされず物理的な事実を

- 発表される「数値の定義」を常に疑う
発表される「数値の定義」を常に疑う
- PCRと抗体など複数のデータを比較検証する
- 無意味な茶番で人生の時間を浪費しない

